

# 広報 **カキダ**

No.287



**3**月

1995



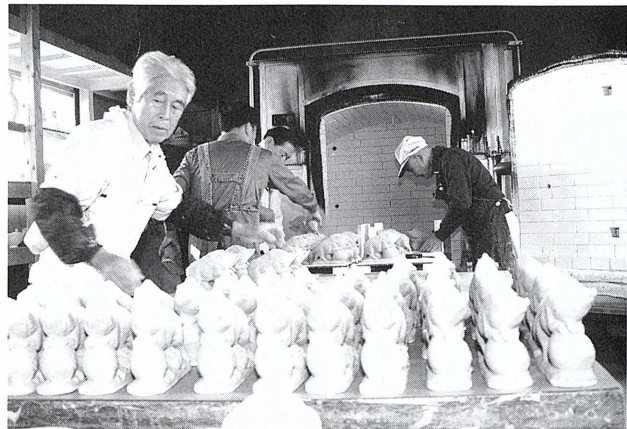
住んでみたいまち  
住みつづけたいまち

■発行・編集 金田町役場企画開発課  
〒822-12 福岡県田川郡金田町大字金田937-2 ☎ 0947-22-0556 FAX0947-22-0782

# わたしたちも、 ひとまず卒業しました。

平成6年5月12日から始まった金田町高齢者生きがい健康教室が、2月23日に閉講式を迎えました。「豊かな生きがいのある生活を求めて」のテーマのもとに、受講生118人のみなさんは、延32回にわたる講義などを積極的に参加し、ひと区切りの卒業。5月から新たに始まる平成7年度の教室を心待ちにしています。

今回は、2月16日に行なわれた受講生の体験発表を、各選択コース代表4人の方が、それぞれに感じられたことをご紹介します。



## ともに土に親しんで

陶芸教室 福田 昌



平成6年5月12日に開講した「高齢者生きがい健康教室」も2月には閉校式を迎えようとしています。あの暑かった炎夏の夏も、1月の寒さにも負けることなく、毎週の木曜日に受講される皆さんと一緒に学習することができて本当に嬉しく思っています。

さて、本年度の教室は、昨年までとは違い、新しい構想で発足されました。毎回の受講前には保健婦さんから血圧測定と健康指導をしてもらい、一般教養の学習もほとんどが病気の予防や健康保持の方法、老人福祉制度などの内容となりました。今までに20回以上の講話や実技の指導を受けましたが、毎回医師や保健婦、栄養士さんなど専門職の方々から、難しい話をわかりやすく、資料や実例を使っての指導を受けることができました。歯の健康、大腸がんの予防、糖尿病の予防、骨粗しょう症の予防、家庭看護、心の健康など強く心に刻み込まれています。これらの知識を自分はもちろんのこと、家族や親族、知人の健康保持や疾病予防に役立てたいと思っています。

## 絆

### 健康と体力づくり教室

高塚 京子

老人大学から、生きがい健康教室となりまして、私も学級の一員となりお世話になり続けています。この教室に生まれて、いろいろな講義を聞き、そのお話の内容を全部マスターできなくても、何か一つでも記憶にとどめることができれば、私にとっては上出来でございます。それから、楽しく弁当をいただき、以後それぞれの趣味志向に応じた教室で楽しく勉強されるのでありますが、ただ、それだけでなく隣合わせの人、前の席の人、後の方、目とどく範囲で顔を見、喋りをし、その日を「ああ、楽しかった」と思いながら家路につきます。帰りますと主人がたった一人います。(二人いとも大変ですけど)家は、靴の修理屋でございます。従って私はそのカーチャンでございます。

最近はずっかり肉体的に目は衰え、耳は遠く、足は弱まりまして生活上いろいろとトラブルが起こり、腹の立つことも数多くございますが、決してボケはありません。むしろ、私の方がボケていると、きの方が多いでございます。

いろいろと情けなさいで、最近よく怒鳴られることがあります。私も凡人ですから、いけないなあと思いつつも、でも、このような偏屈な主人も私が最も尊敬していることがあります。それは、これほど目や耳が不自由に拘らず、仕事ができることです。でも、昔の主人の仕事振りを存じの方は、お客様によつてはすこく怒られる方もいらっしゃる。中には、すっきりよくなった修繕靴を見てとても喜んで「この靴はボロですけど、私は気に入っているものですから出来なければ捨てようと思っていたのに嬉しい」と喜んで帰られるのです。

「ちいさま」よかったね。あんなに喜んで人に感謝される立派ねと、その時の主人はとっても立

高齢化社会を迎えての老人福祉10か年計画を中心とした福祉制度や医療の制度も、その現状と将来についての説明を担当職員から聞くことができました。私たち高齢者のこれからの生き方や考え方について、警告が与えられたように感じたのは私だけでしょうか。

選択の専門コースは、陶芸教室を受講しました。5月19日の第1回から30回にわたり、毎木曜日の午後2時間を越える実習で、陶芸の基本を懇切丁寧に教えていただきました。

思い出しますとその間に、手ひねりによる茶碗、香合、筆立て、湯のみ、ひら板作りによる角皿。ひも作りによる小壺を製作して、カナダふれあいフェスタに展示することができました。

その後、ろくろによる成形の指導を受けて、小皿や小鉢の製作もできるようになりました。只今は最後の修了作品として、香炉作りをしています。本体作り、蓋作りと進んでいます。どんな作品ができるか、みんな楽しみにしています。

実習にあたっては、講師の松原亨子先生、辻智子先生から、ひとりひとり作品の一つ一つに手を添えていただき、不細工な作品もそれなりのおよい作品に仕上げてくださいました。どうにか見られる作品を作ることができたのは、みんな先生方のお陰です。本当にありがとうございます。

早いもので本年度の教室も後僅かとなりました。この充実した内容を企画運営してくださった運営委員の方々をはじめ、事務局の方々に厚くお礼を申し上げます。さらには、楽しく学習できるようにお骨折りでくださった講師の先生方や学級長さんはじめ自治会の役員さんに深く感謝申し上げます。

派に思えるのです。私は人に喜ばれるどころか、何一つできません。

人それぞれの生活があり、日一日を精一杯に生き、その生活の中で喜んだり悲しんだり、激怒したり、また感謝したり、不安にかられたりしながらその都度に、自分との闘いをしられて来られたものと思えます。時折、人それぞれの異なったお話を耳にするのでありますが、その人の精一杯の悔み、苦しみ、楽しいこと、等々を時間の許す限り聴いてあげるだけで、その人は東の間でも、心が救われたような気持ちになるのではないかと思います。人の悩み、苦しみは、決して比重にかけられるものではないと思えます。この教室に来て、一言一言交わすことによつて、人と人との絆ができてくるのではないのでしょうか。この度、予期せぬところで最も大きな災害が起き、多くの人々を失い、傷つき、家を失い、仕事を失い、正に想像を絶するものがあります。人の命の尊さ、その厳しい状況の中で何の縁故なき人もお互いの命を救い、助け合った生きることに懸命な姿、これこそ人と人との絆ではないでしょうか。

日一日と、心身共に弱ってくる今日この頃でございますが、できるだけここに出来て来て、この中で皆さん同じ年での同級生とお考えになって、お互いを理解し、人の傷みを少しでもわかってあげ、楽しく優しくより一層心豊かな生きがいのある教室であつて欲しいものと考えます。

